

寄附のご案内

ご寄附をいただいた寄附金は、大学が行う事業の一層の充実のための資金とさせていただきます。

ご寄附いただく個人、法人、団体等が用途を希望される場合は、そのご意向に沿って有効に活用させていただきます。皆様の格別のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



● 寄附の目的

- (1) 教育、研究活動、地域貢献活動の充実
- (2) 学生支援の充実
- (3) 施設・設備の整備
- (4) その他大学運営の向上



QRで確認

● 寄附の方法

インターネットからのお手続き

決済方法は、クレジットカード、コンビニエンスストア、Pay-easyの中から選択できます。

書面によるお手続き

所定の様式によりお申し込みの上、本学から送付する書類に基づきお振込みください。

福知山市のふるさと納税による寄附

設置団体である福知山市のふるさと納税制度の区分には「福知山公立大学の教育研究環境の整備や地域課題の解決等に向けた研究活動、学生への奨学金事業への寄附」が設けられています。寄附をされた方には、金額に応じて福知山市の特産品の中から希望されるお礼品が贈呈されます。



QRで確認

古本募金(きしゃぼん)による寄附

読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定金額が福知山公立大学に寄附される制度です。

● 寄附の方法

宅配便によるご寄附

ご指定の時間にご自宅まで宅配業者が受け取りに伺います(5点以上で送料無料)。

回収ボックスのご利用

学内または福知山市役所(1階ロビー)に設置している回収ボックスに入れてください。



QRで確認



WEB OPEN CAMPUS 開催中!

パソコンやスマホから気軽にアクセスできるWEBでのオープンキャンパスを実施しています。福知山公立大学の学びや先生からのメッセージなどを動画コンテンツでご覧いただけます。受験準備に役立つ情報をしっかり手に入れてくださいね。

<https://www.fukuchiyama.ac.jp/oc/>



QRで確認

皆様の忌憚のないご意見をお寄せください。お待ちしております。

● ご意見、ご感想は
〒620-0886 京都府福知山市字堀3370 福知山公立大学 事務局
Tel. 0773-24-7100 Fax. 0773-24-7170
E-mail info@fukuchiyama.ac.jp



福知山市大江町・大江山の8合目にある鬼嶽稲荷神社からの眺望



情報学部情報学科が始動。 初年度から多様な地域との関わりを展開。

2020年4月、情報学部情報学科が設置されました。先端情報技術の活用による地域貢献を学部開設時に掲げ、初年度から様々な連携や活動が行われています。そこで巻頭特集として、西田豊明学部長に学部の現状、開学からの約半年間に地域との関わりとして取り組んできたこと、そして今後の展望などについてお伺いしました。

PBLとして取り組まれた 明智光秀×福知山アイデアビューア (倉本到教授)

情報学部の2020年度の入学者は108名で、専任教員は現在17名が在籍。AI(人工知能)、データサイエンス、IoTに代表される先端情報技術を活用し、地域の発展に寄与する人財の育成と、その実践をめざします。カリキュラムの特色としては、PBL(課題解決型学習)を1年次から段階的に履修でき、他大学が4年次で取り組むような実践的な学びを低年次より体験し、4年間を通じて工学的な知識とともに経営的センスなども身につけていきます。

PBLの事例の1つ「明智光秀×福知山アイデアビューア」では、福知山市と本学が協同で制作した「明智光秀×福知山

IDEABOOK(アイデアブック)をデジタルアーカイブ化しました。アイデアブック完成後、情報技術を用いて「集まったアイデアをみんなで共有できるシステムができないか」と福知山市から依頼があり、情報学部の倉本ゼミの学生さんたちが開発。タッチパネルを操作すると、画面に付箋の形でアイデアが表示される仕組みで、構想からデザイン、プログラミングまでのすべてを学生さんたちが手掛けました。同コンテンツは、福知山駅構内、福知山市立図書館中央会館を経て、現在は福知山城天守閣で展示されています(2021年3月31日まで)。



明智光秀×福知山 IDEABOOK

子どもたちに明智光秀と福知山について知ってもらうとともに、「自分が光秀だったらどうするか」「光秀のまち福知山を面白くするにはどんなアイデアがあるか」と、光秀を通して地域への関心を高め、自分たちはどのようにこのまちと関わるかを考えるキッカケとなることを目的に、福知山市が福知山公立大学の塩見直紀准教授と、地域経営学部の大学生との協働のもと制作し、2020年3月に完成しました。

出典:「いがいと!福知山」

<https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/site/promotion/28472.html>

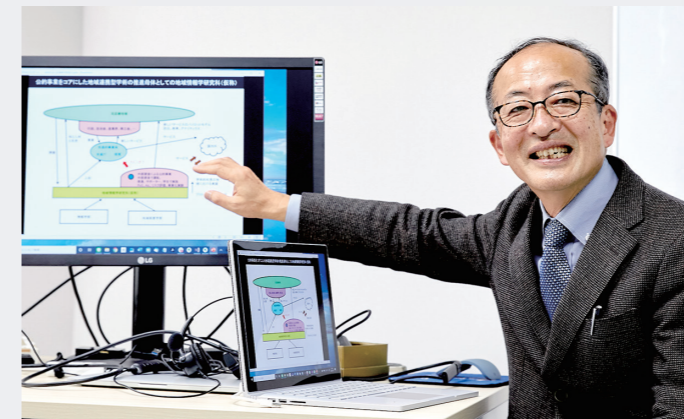
避難者位置即時登録システムを地域の防災訓練で 実証実験(衣川昌宏准教授)

福知山市は水害をはじめ災害が少ない地域であり、地域貢献において「防災」は主要な取り組みとして当初より掲げています。今年度行った事例としては、福知山市より「QRコードを使った避難者情報を一元的に把握できるシステム」開発の依頼を受け、同システムを構築。QRコードをスマホのカメラ機能で読み取ることで、避難者の氏名や避難状況、現在位置がインターネット上の地図に表示



情報学部 学部長 西田 豊明教授

京都大学工学部卒業、同大学院修士課程修了。1993年、奈良先端科学技術大学院大学教授。1999年、東京大学大学院工学系研究科教授。2001年東京大学大学院情報理工学系研究科教授。2004年、京都大学大学院情報学研究科教授を経て、2020年より現職。人工知能とインタラクションの研究を手掛ける。



される仕組みで、8月30日に開催された大江町蓼原自治会での防災訓練などで実証実験も行いました。こうしたプロジェクトがスムーズに実現されるのも行政と大学が密接に結びついている本学ならではの。研究の観点からも、システムを構築して終わりではなく、即座に地域に還元され、市民の皆さんと一緒に取り組めるのは非常にありがたいと感じています。



避難者位置即時登録システム

災害時の避難誘導に必要な避難者の位置情報および、避難所での医療情報確認などの生命維持に必要な情報をたった一つのQRコードで管理するこのシステムでは、災害時に避難者がスマートフォンでQRコードを読み取ることで氏名や位置情報が地図に表示され、災害時の活用に大きな期待が寄せられています。

現在進行中のもとしては、豪雨災害防災に向けた「早期防災活動支援情報システム」があります。本プロジェクトでは、地区内に観測点を複数設置することにより、豪雨による内水害および土砂災害から地域の皆さんを守ることを目標としています。



豪雨災害防災に向けた 早期防災活動支援情報システム

現行の気象観測・予報では、地域ではなく地区レベルで生じる局所的な突発的気象現象を観測することは困難です。気象庁などの気象レーダは電波の届かない山かけや電波を吸収するほどの豪雨の壁を越えたエリアは観測できません。この問題を解消すべく、雨量計・水位計を地区内に複数設置。土砂崩れを予測するために、土壌含水量計測や地面の変位を観測することも予定しています。

小中学校の生徒や教員を対象に プログラミング学習をサポート

山本吉伸教授、衣川昌宏准教授、橋田光代准教授、藤井叙人講師、前田一貴講師、眞鍋雄貴講師

情報教育としては、京都府教育委員会中丹教育局からの依頼で、福知山市夜久野町や綾部市の小中学校のプログラミング教育に取り組む教職員の支援を行っています。2020年よりプログラミング教育が小学校で必修化され、現場では「プログラミングをどのように教えたらいいいのかわからない」という声が上がっています。そこで本学部の4名の教員がサービス工学、IoT、音楽、数学という各分野の観点から、プログラミング教育の授業づくりをサポート。今も現場の先生方と定期的に交流する中で教材づくりなどを共同で手掛け、その成果は2021年3月に模擬授業として発表される予定です。

福知山公立大学情報人材育成プロジェクトとして、夏休み期間に小中学生を対象としたプログラミング教室を本学で開講しました。Scratch(スクラッチ)という小学生でも簡単にプログラミングができるソフトを用いて、例えば「こんにちは」という自分の言葉に反応して扇風機が回るといった、コンピュータとモノをつなぐプログラミングなどを体験。体感的に、楽しみながら学べると参加者の皆さんにもご好評いただきました。同プロジェクトは春休みにも開講されます。



小中学生対象プログラミング教室を開講



命令の書かれた様々なブロックを組み合わせることで、キャラクターを動かしたり音を鳴らしたりしながらプログラミングの仕組みが学べるScratch。同ソフトを用い、生徒たちは自分で書いたプログラムが動く楽しさを体験しました。

研究成果を市民が活用できる データサイエンスセンターの開設も

これまでご紹介したの以外では、「丹後ちりめんに関するデジタルアーカイブとテキスト感性評価システムの構築」(崔童殿准教授)や、地域経営学部と共同で行う「AIが介護保険行政を代行する際のルールに関する研究」など、福知山市を中心とした北近畿との連携をはじめ、地域の資源に目を向けた研究活動にも積極的に取り組んでいます。

文部科学省が推進する数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの連携校に参加し、学内外におけるデータサイエンスの教育プログラムの提供を予定しています。2019年12月に文部科学省が「GIGAスクール構想」を打ち出しました。実現すれば、全国の教育現場から大量のデータが上がってくるわけですが、そのデータを誰もが自由に分析し、活用できるようにするにはデータを匿名化する必要があります。2、3年後の実現を目標に教育データの採取・加工・分析が進行中で、完成すれば教育だけではなく産業や商業など他分野への応用も考えられるでしょう。学部としても、今後データサイエンスセンター(仮称)を開設し、研究活動はもちろん、市民の皆さんに無償でサービスを提供する事業なども検討しています。(畠中利治准教授)そして将来的には、本学部の卒業生が起業し、同センターを活用したビジネスを展開する中で、地域に貢献してくれることにも期待したいですね。



GIGAスクール構想とは?

GIGAは「Global and Innovation Gateway for All」の略。児童生徒向けの1人1台端末と、高速ネットワーク環境などを整備する構想。5年計画で、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させることがめざされています。



観光の可能性を探る 軸とした コミュニケーションツールの 活用

地域経営学部
中尾 誠二教授

コロナ禍で見えた オンライン宿泊の可能性

小中高生が田舎の民家に泊まり、農業体験などを行う「教育民泊」と農村振興の研究に取り組んできました。また2015年頃から大都市圏の投機型ブラック民泊が社会問題となり、引き続き当該分野の研究を行っています。ただ、2020年は新型コロナウイルスによって観光業界も状況が激変し、現在はその対応策への関心が高まっています。例えば、新たな旅の試みとして広まってきているのが、オンライン宿泊やリモートトラベルです。ゲストハウスの場合、宿のホストや他の宿泊客との交流も面白さ、魅力となっており、それをオンライン上で再現するというもの。そこで交流を深め、その後、実際に会いに行くということが起こっています。友人や親族に会いに行くVFR観光※という概念がありますが、オンライン宿泊はVFRにつながるような可能性を秘めており、今後研究に取り組んでみたいと考えています。

※VFR観光。
Visiting Friends and Relativesの略で、旅行目的の分類の一つ。
友人や親族の訪問を目的とした旅行を指します。

地域に泊まり込み、語らうことで 生まれる真の交流

ゼミでは、交流観光などによる多自然圏(≠大都市圏)の地域活性化をテーマに参与観察を行っています。福知山市では旧3町を中心に、それ以外にも綾部市、舞鶴市、南丹市、兵庫県では豊岡市、朝来市、養父市など、様々な地域でフィールドワークを行ってきました。原則として宿泊しながら現地調査を行い、ゲストハウスなどでは学生と地域の方々とは話し合いの場を持ち、時には日付が変わるくらいまで対話が白熱することも。その中で地域の方々との交流を深め、本音を伺うとともに、人的ネットワークを広げる場にもなればと考えています。本学では「交流観光」を掲げていますが、従来型のビジネスのための観光ではない、人との交流を軸とした「コミュニケーションツールの活用」が農山漁村にはあり、その一端に触れられるのが、まさにフィールドワークの醍醐味だと思います。

活動を通して大きく育まれた 福知山に恩返ししたい!という思い。

フィールドワークを通じて、 地域の問題をダイレクトに知る

中尾ゼミでのフィールドワークで、1年次から福知山市の三和・大江・夜久野の旧3町を中心に様々な地域を訪問し、地元の方々との交流させていただいています。現地ではお祭りや農業体験などに参加するほか、民泊での交流会では土地の歴史や特色、抱えている問題などの話題が上がり、地域の皆さんのご意見を直に伺える貴重な機会にも。本やニュースなどからだけではわからない「生の声」を聞くことで問題意識が強くなり、より自分事として地域の問題に取り組むきっかけにもなっています。

現場で感じた、 地域同士のつながりの大切さ



複数の地域を定期的
に訪問する中で見えてきたのが、少子高齢化による後継者問題という共通の課題です。例えば、大江町で開催されている「大江山鬼っ子マラソン大会」では地元のボランティアの方が運営を支えています。高齢化が進み、継続していくには若い人の力が必要だという話を伺いました。その一端を私たち学生が担えればとは思いますが、一方で定住者ではないので抜本的な解決策にはならないという問題も。個人的には、一つの地域だけで課題を解決していくのは難しく、地域間の連携が重要だと感じており、そのテーマを卒業研究で追究できればと考えています。

住民の声



福知山観光協会 大江支部会員
佐藤 秀樹さん

若い人たちの視点で、大江地区の魅力を発信して欲しい。

中尾先生とは旧知の仲で、市の講座などにも講師としてお力を借りていましたが、公立大学化を機に学生さんたちとも交流の場を広げることができました。どぶろくの特区でもある大江地区で民泊してもらい、一緒に夕食を楽しみつつ、地区の歴史や文化・伝説について伝えていきます。また、大江山の自然やアウトドアの素晴らしさも体験してもらっています。若い人の発想力で大江地区の観光資産をPRしてもらったり、定住者増加の企画を立案してもらったりできないかと大いに期待しています。そのためにも今後も学生さんたちとの交流をより深めていきたいと思っています。

地域経営学部地域経営学科3年生
吉国 快斗さん
徳島県立小松島高等学校出身



教科書だけではわからない 生きる知恵を学べるのも魅力

ある地域の農家の方から、農作業に取りかかる前にルーティンワークとしてご近所の皆さんに挨拶をして回り、それが「今日も1日ががんばるぞ!」という自分への活力にもなるという話を伺ったことがあります。この事例に限らず、教科書には載っていない“生きるコツ”のようなものを学べるのもフィールドワークの魅力です。私自身、多くの方々との関わりを持つ中でコミュニケーション能力が向上したと思いますし、挨拶も誰とでも自然にできるようになりました。活動を通して、お世話になった地域の方々に恩返しをしたいという思いも大きくなり、卒業後は自治体職員をめざしています。



大江町へ教育民泊のモニター宿泊(2019年7月)

FUKUCHIYAMA NEWS & TOPICS

新型コロナウイルス対策について

前学期は全ての授業をオンライン等により遠隔で実施しました。研究室に複数のカメラや音響機材を並べたポータブルオンライン授業用スタジオを設置して対面授業に近い映像を配信したり、フィールドワークができない学生の代わりに教員が現地を訪れて自宅にいる学生に映像を配信するなど、様々な工夫を凝らした授業が展開されました。後学期は、新型コロナウイルス感染対策を徹底したうえで実験・実習科目等の対面授業、フィールドワークを再開しました。学生の就職活動は、キャリアカウンセラーへの相談や面接指導をはじめ、各種セミナー、公務員等試験対策講座をオンラインで実施してサポートしています。

校舎、メディアセンター、学生食堂等の各施設にはアルコール消毒液の設置や座席の間引き、飛沫感染防止のための衝立の設置等により感染対策を行なっています。



研究室から授業を配信(情報学部・衣川准教授)



各スペースに衝立を設置(メディアセンター)

本学の新型コロナウイルス感染対策の取り組みについてはウェブサイトにて公開しています。

<https://www.fukuchiyama.ac.jp/news/11781/>



北近畿地域連携機構に改組しました

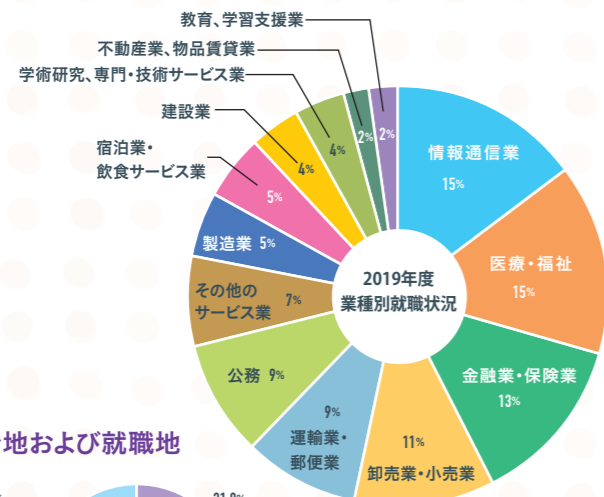


丹後ちりめんの伝統工芸士に歴史や現状をヒアリング

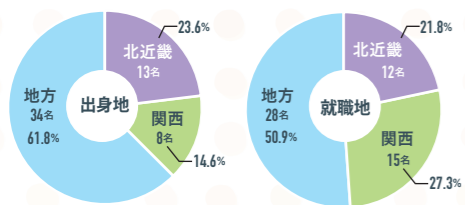


これまでの北近畿地域連携センター、市民学習・キャリア支援センター、そしてまちかどキャンパスを、2020年度より北近畿地域連携機構に統合し、このもとに研究部、市民学習部、まちかどキャンパス部を設置しました。北近畿地域を舞台にした文理連携型の研究の取り組みとして「自治体における地域経営をAIはどまで担えるかー福祉労働とソーシャル・キャピタルの視座からー」「北近畿地域におけるクラウドファンディング活用推進に関する研究」「丹後ちりめんに関する情報のデジタルアーカイブとテキストスタイル感性評価システムの構築」等の研究課題に地域経営学部と情報学部の教員で研究チームを構成して取り組んでいます。

2019年度卒業生(地域経営学部・公立化後の第1期入学生)の就職状況について



就職者の出身地および就職地



北近畿：京都府北部・兵庫県北部(丹後・丹波・但馬)
 関西：北近畿を除く、京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県
 地方：北近畿、関西を除くすべての地域



築瀬 丞さん

地域経営学部 地域経営学科2020年3月卒業
 島根県立隠岐島前高等学校出身
 福知山市 産業政策部産業観光課商業振興係 勤務

学びの場であった福知山に
 学んだことを還元していきたい!

金融や教育系など複数の企業から内定をいただきましたが、最終的に福知山市役所への入職を選びました。現在は「まちなかフェスティバル」の実行委員会などを担当。福知山公立大学1期生としての自覚を持って日々の業務に取り組み、4年間学んできたことを学んだ地域に還元していければと思います。

Code for Fukuchiyamaが「福知山テイクアウトMAP」「消防水利マップ」を作成しました

Code for Fukuchiyamaは、情報技術を活用して地域課題の解決へ導くことを目的に、本学の学生と教員、民間企業や行政機関の職員等で2020年4月に結成された任意団体です。

「市内の飲食店を応援したい」という想いから企画された「福知山テイクアウトMAP」(2020年11月終了)は、福知山市全域のテイクアウト可能な飲食店(約120店舗)のメニューや営業日などの情報を「google MAP」に表示しました。「消防水利マップ」は、福知山市内に約6千個ある防火水槽や消火栓の位置が「google MAP」に表示され、火災現場で消防関係者や地域の方に活用されることが期待されます。このほか、地域によって異なるごみの収集日を通知するアプリなどの制作も進めています。



福知山テイクアウトMAP(2020年11月に終了)



消防水利マップ

「消防水利マップ」はCode for Fukuchiyamaのウェブサイトからご覧いただけます。

